

2025年度 東京大学 前期 数学 文系

文科 第1問

$$C: y = x^2 \dots\dots ①$$

(1) ①より, $y' = 2x$

よって, 点 $P(a, a^2)$ における法線 l の方程式は, $a > 0$ に注意して

$$y - a^2 = -\frac{1}{2a}(x - a)$$

$$y = -\frac{1}{2a}x + \frac{1}{2} + a^2 \dots\dots ②$$

①, ②より

$$x^2 = -\frac{1}{2a}x + \frac{1}{2} + a^2$$

$$x^2 + \frac{1}{2a}x - \left(\frac{1}{2} + a^2\right) = 0$$

$$(x - a)\left\{x + \left(\frac{1}{2a} + a\right)\right\} = 0$$

よって

$$x = a, -\left(\frac{1}{2a} + a\right)$$

$a > 0$ より $a \neq -\left(\frac{1}{2a} + a\right)$ であるから, 点 Q の x 座標は

$$-\left(\frac{1}{2a} + a\right) = -\frac{2a^2 + 1}{2a}$$

である.

(2) $a > 0$ より

$$\frac{2a^2 + 1}{2a} = a + \frac{1}{2a} \geq 2\sqrt{a \cdot \frac{1}{2a}} = \sqrt{2}$$

であり, 等号は, $a = \frac{1}{2a}$ つまり $a = \frac{1}{\sqrt{2}}$ のとき成り立つ. また, a が大きくなると, $a + \frac{1}{2a}$ はいくらでも

大きくなるから, $t = \frac{2a^2 + 1}{2a}$ とおくと, t の取りうる値の範囲は $t \geq \sqrt{2} \dots\dots ③$ である.

(1) と同様に, 点 R の x 座標は

$$-\frac{2(-t)^2 + 1}{2(-t)} = \frac{2t^2 + 1}{2t}$$

である.

$\frac{2t^2 + 1}{2t} = k \dots\dots ④$ とおいて, ③, ④を満たす実数 t が存在するための条件を求める.

$$④ \Leftrightarrow 2t^2 + 1 = 2kt \Leftrightarrow 2t^2 - 2kt + 1 = 0$$

$f(t) = 2t^2 - 2kt + 1$ とおくと

$$f(t) = 2\left(t - \frac{k}{2}\right)^2 - \frac{k^2}{2} + 1$$

よって, ts 平面において放物線 $s = f(t)$ の軸は $t = \frac{k}{2}$ であり, $f(0) = 1 > 0$ を考えると

(i) $\frac{k}{2} \geq \sqrt{2}$ つまり $k \geq 2\sqrt{2}$ のとき, $f\left(\frac{k}{2}\right) = -\frac{k^2}{2} + 1 < 0$ となるから, 適する.

(ii) $\frac{k}{2} < \sqrt{2}$ つまり $k < 2\sqrt{2}$ のとき

$$f(\sqrt{2}) = 2(\sqrt{2})^2 - 2k \cdot \sqrt{2} + 1 \leq 0$$

よって

$$k \geq \frac{5\sqrt{2}}{4}$$

(i), (ii) まとめて, ③, ④を満たす実数 t が存在するための条件は

$$k \geq \frac{5\sqrt{2}}{4}$$

である.

したがって, 点 R の x 座標の最小値は

$$\frac{5\sqrt{2}}{4}$$

である.

(別解) ③までは同じ

(1) と同様に, 点 R の x 座標は

$$-\frac{2(-t)^2+1}{2(-t)} = \frac{2t^2+1}{2t} = \frac{3}{4}t + \frac{t}{4} + \frac{1}{2t} \geq \frac{3}{4}\sqrt{2} + 2\sqrt{\frac{t}{4} \cdot \frac{1}{2t}} = \frac{5}{2\sqrt{2}}$$

等号は $t = \sqrt{2}$ かつ $\frac{t}{4} = \frac{1}{2t}$ のとき, すなわち $t = \sqrt{2}$ のとき成り立つ.

したがって, 点 R の x 座標の最小値は

$$\frac{5\sqrt{2}}{4}$$

である.

文科 第2問

(3) 辺 BC の中点を M とすると

$$AM = \cos \frac{\theta}{2}, \quad BM = CM = \sin \frac{\theta}{2}$$

(i) 辺 AB, AC, BC がすべて D_r に含まれるための条件を考える。

(ア) $0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$ のとき, $AM \geq BM$ であるから

$$r \geq \max \left\{ \frac{1}{2}, \frac{1}{2}BC \right\} = \max \left\{ \frac{1}{2}, \sin \frac{\theta}{2} \right\}$$

よって

$$0 < \theta \leq \frac{\pi}{3} \text{ のとき, } s = \frac{1}{2}$$

$$\frac{\pi}{3} < \theta \leq \frac{\pi}{2} \text{ のとき, } s = \sin \frac{\theta}{2}$$

(イ) $\frac{\pi}{2} < \theta < \pi$ のとき, 辺 AB の垂直二等分線と

辺 BC との交点を P とすると, P は線分 BM 上にあり

$$BP = \frac{\frac{1}{2}}{\sin \frac{\theta}{2}} = \frac{1}{2 \sin \frac{\theta}{2}}$$

よって

$$s = BP = \frac{1}{2 \sin \frac{\theta}{2}}$$

(ii) $\triangle ABC$ が D_r に含まれるための条件を考える. $\triangle ABC$ の外接円の半径を R とする.

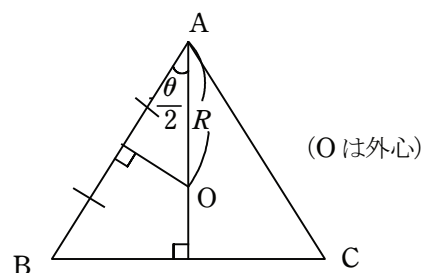
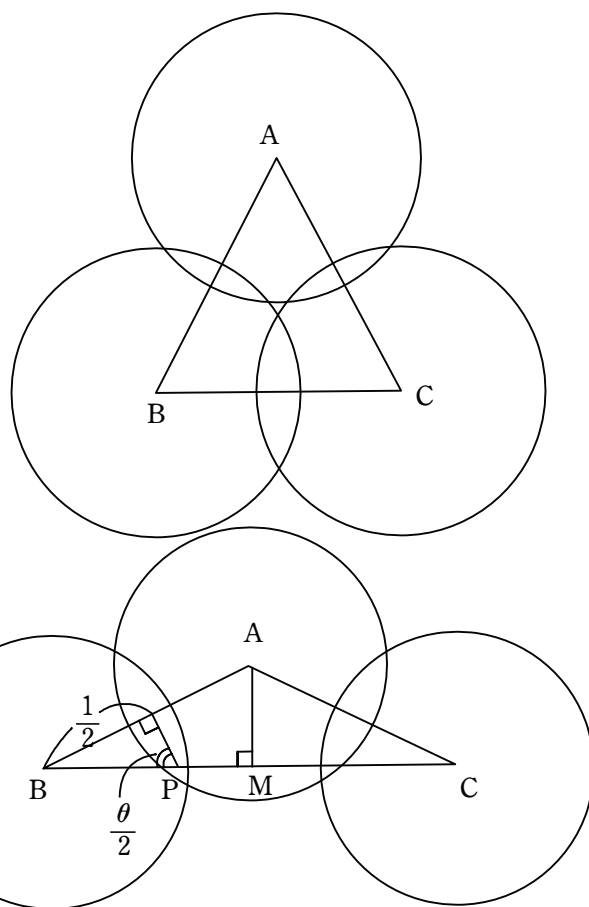
(ウ) $\triangle ABC$ の外心が $\triangle ABC$ の周および内部にあるとき,

すなわち $0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$ のとき

$$r \geq R$$

よって

$$t = R = \frac{\frac{1}{2}}{\cos \frac{\theta}{2}} = \frac{1}{2 \cos \frac{\theta}{2}}$$



(エ) $\triangle ABC$ の外心が $\triangle ABC$ の外部にあるとき, すなわち $\frac{\pi}{2} < \theta < \pi$ のとき, (イ) と同様に

$$t = BP = \frac{1}{2 \sin \frac{\theta}{2}}$$

(1) $\angle BAC = \frac{\pi}{3}$ のとき, (ア), (ウ) より

$$s = \frac{1}{2}, \quad t = \frac{1}{\sqrt{3}}$$

(2) $\angle BAC = \frac{2\pi}{3}$ のとき, (イ), (エ) より

$$s = t = \frac{1}{2\sin \frac{\pi}{3}} = \frac{1}{\sqrt{3}}$$

文科 第3問

白玉を○, 黒玉を●と表す.

手順(*)を n 回行った後に右端の2個の玉が「○○」, 「○●」, 「●○」, 「●●」である確率を順に, a_n, b_n, c_n, d_n とおくと

$$a_n + b_n + c_n + d_n = 1 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

が成り立つ.

はじめ玉の並びは○○であり, 手順(*)を1回行った後では「○○○」か「○○●」であるから

$$a_1 = \frac{1}{2}, \quad b_1 = \frac{1}{2}, \quad c_1 = 0, \quad d_1 = 0$$

である.

また, 手順(*)を n 回行った後と, $n+1$ 回行った後の右端の2個の玉の変化の推移は, 次のようになる。

n 回後		$n+1$ 回後
○○	→	○○ または ○● (確率はいずれも $\frac{1}{2}$ ずつである)
○●	→	○○ または ●● (確率はいずれも $\frac{1}{2}$ ずつである)
●○	→	○○ または ●● (確率はいずれも $\frac{1}{2}$ ずつである)
●●	→	●○ または ●● (確率はいずれも $\frac{1}{2}$ ずつである)

したがって

$$\begin{cases} a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{2}b_n + \frac{1}{2}c_n & \cdots \cdots \textcircled{2} \\ b_{n+1} = \frac{1}{2}a_n & \cdots \cdots \textcircled{3} \\ c_{n+1} = & \frac{1}{2}d_n & \cdots \cdots \textcircled{4} \\ d_{n+1} = & \frac{1}{2}b_n + \frac{1}{2}c_n + \frac{1}{2}d_n & \cdots \cdots \textcircled{5} \end{cases}$$

が成り立つ.

②-⑤より

$$a_{n+1} - d_{n+1} = \frac{1}{2}(a_n - d_n)$$

となり, これより

$$a_n - d_n = (a_1 - d_1) \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} = \left(\frac{1}{2}\right)^n \quad \dots\dots ⑥$$

②+⑤より

$$a_{n+1} + d_{n+1} = \frac{1}{2}(a_n + d_n) + (b_n + c_n)$$

となり、①より $b_n + c_n = 1 - (a_n + d_n)$ であるから

$$a_{n+1} + d_{n+1} = -\frac{1}{2}(a_n + d_n) + 1$$

$$a_{n+1} + d_{n+1} - \frac{2}{3} = -\frac{1}{2}\left(a_n + d_n - \frac{2}{3}\right)$$

と変形できる。これより

$$a_n + d_n = \frac{2}{3} + \left(a_1 + d_1 - \frac{2}{3}\right) \cdot \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1} = \frac{2}{3} + \frac{1}{3}\left(-\frac{1}{2}\right)^n \quad \dots\dots ⑦$$

となる。

(3) $\frac{⑥+⑦}{2}$ より

$$a_n = \frac{1}{3} + \left(\frac{1}{2}\right)^{n+1} - \frac{1}{3}\left(-\frac{1}{2}\right)^{n+1}$$

となり、これが右から1番目と2番目がともに白玉である確率である。

(2) $n \geq 2$ のとき、③より

$$b_n = \frac{1}{2}a_{n-1} = \frac{1}{6} + \left(\frac{1}{2}\right)^{n+1} + \frac{1}{3}\left(-\frac{1}{2}\right)^{n+1}$$

であり、これは $n=1$ のときも正しい。

よって、右から2番目の玉が白玉である確率は

$$a_n + b_n = \frac{1}{2} + \left(\frac{1}{2}\right)^n \quad \dots\dots ⑧$$

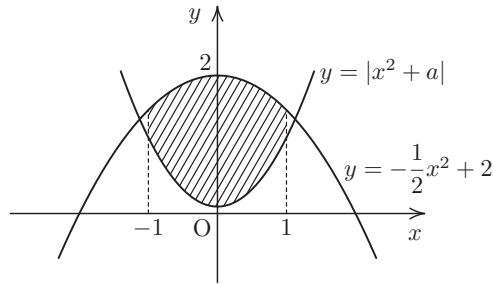
である。

(1) $n=3$ のとき右から2番目の玉が白玉である確率は、⑧で $n=3$ として

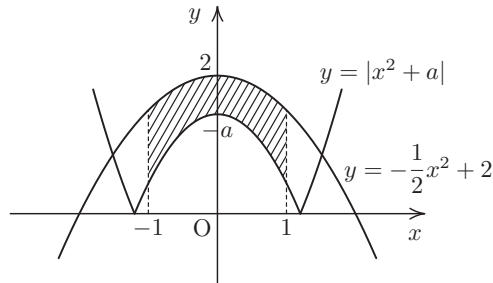
$$\frac{1}{2} + \left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{5}{8}$$

である。

文科 第 4 問



$a \geq 0$ のときは, $|x^2 + a| = x^2 + a$ であり, $0 \leq a < 2$ のとき, $S(a)$ は $-1 \leq x \leq 1$ の範囲で, 不等式 $x^2 + a \leq y \leq -\frac{1}{2}x^2 + 2$ で表される領域の面積となる. a が $0 \leq a < 2$ の範囲を動くとき, a が増加すると $y = x^2 + a$ のグラフは上に上がっていくので, $S(a)$ は単調減少となる. よって, この範囲では $a = 0$ のとき $S(a)$ は最大となる.

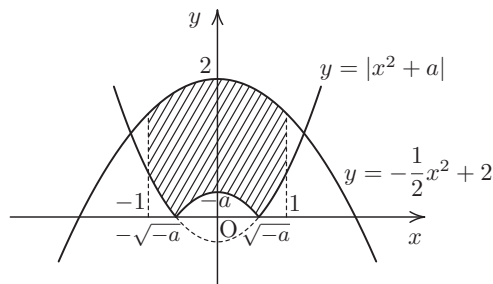


また, $-1 \leq x \leq 1$ の範囲において, $x^2 \leq 1$ となるので, $-2 \leq a \leq -1$ のとき, $x^2 + a \leq 1 + a \leq 0$ となる. よって, このとき $-1 \leq x \leq 1$ において, $|x^2 + a| = -x^2 - a$ となるので, $S(a)$ は $-1 \leq x \leq 1$ の範囲で, 不等式 $-x^2 - a \leq y \leq -\frac{1}{2}x^2 + 2$ で表される領域の面積となる. ここで,

$$\left(-\frac{1}{2}x^2 + 2\right) - (-x^2 - a) = \frac{1}{2}x^2 + 2 + a \geq 2 + a \geq 0 \quad (a \geq -2 \text{ より})$$

であるので, $y = -\frac{1}{2}x^2 + 2$ のグラフは常に $y = -x^2 - a$ のグラフの上方にある. このことに注意した上で, a が $-2 \leq a \leq -1$ の範囲を動くとき, a が増加すると $y = -x^2 - a$ のグラフは下に下がっていくので, $S(a)$ は単調増加となる. よって, この範囲では $a = -1$ のとき $S(a)$ は最大となる.

以上より, $-1 \leq a \leq 0$ における $S(a)$ の最大値を考えればよい.



$$|x^2 + a| = \begin{cases} x^2 + a & (|x| \geq \sqrt{-a} \text{ のとき}) \\ -x^2 - a & (|x| \leq \sqrt{-a} \text{ のとき}) \end{cases}$$

ここで、 $\sqrt{-a} = t$ とおくと ($a = -t^2$ となる)、面積 $S(a)$ は

$$\begin{aligned}
 S(a) &= \int_{-1}^1 \left\{ -\frac{1}{2}x^2 + 2 - (x^2 + a) \right\} dx - 2 \int_{-t}^t (-x^2 - a) dx \\
 &= \int_{-1}^1 \left(2 + t^2 - \frac{3}{2}x^2 \right) dx + 2 \int_{-t}^t (x^2 - t^2) dx \\
 &= \int_0^1 (4 + 2t^2 - 3x^2) dx + 2 \int_{-t}^t (x + t)(x - t) dx \\
 &= [-x^3 + (4 + 2t^2)x]_0^1 - \frac{2}{6} \{t - (-t)\}^3 \\
 &= -1 + 4 + 2t^2 - \frac{8}{3}t^3 \\
 &= -\frac{8}{3}t^3 + 2t^2 + 3
 \end{aligned}$$

$f(t) = -\frac{8}{3}t^3 + 2t^2 + 3$ とおくと、 $f'(t) = -8t^2 + 4t = 4t(1 - 2t)$ となり、また $-1 \leq a \leq 0$ のとき、 $0 \leq t \leq 1$ となるので、この範囲における $f(t)$ の増減表は以下のようになる。

t	0	...	$\frac{1}{2}$	...	1
$f'(t)$	(0)	+	0	-	
$f(t)$	3	$\nearrow$	$\frac{19}{6}$	$\searrow$	$\frac{7}{3}$

以上より、 $-2 \leq a < 2$ における $S(a)$ の最大値は、 $t = \frac{1}{2}$ ($a = -\frac{1}{4}$) のとき、 $\frac{19}{6}$